

令和6年度

観光文化スポーツ部運営プログラム

評価票

令和7年8月
観光文化スポーツ部

令和6年度 観光文化スポーツ部施策体系

I 第4次山形県総合発展計画の推進

【 】：第4次山形県総合発展計画実施計画の施策番号

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

- (1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】
 - ① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

- (2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】
 - ② 観光地域づくりの推進
 - ③ 戦略的な誘客促進
 - ④ 地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

- (3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】
 - ⑤ 国際ネットワークの形成促進
 - ⑥ 国内広域交通ネットワークの充実強化
- (4) 地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】
 - ⑦ 自然環境や文化資産の保全・活用・継承
- (5) 地域の特性を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】
 - ⑧ 県を越えた交流連携の推進

令和6年度 観光文化スポーツ部 主要事業実施状況

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

(1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】



取組みの成果

① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

K P I	県立文化施設等の来館者数					
	基準値（平成29年度）： 870,200人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	100万人	100万人	100万人
	実績値	583,242人	926,826人	1,122,781人	1,279,180人	1,282,922人
進捗状況	指標値どおりに推移					

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<文化芸術・スポーツ等に触れる機会の充実>

(評価)

- ・ 「第2期山形県文化推進基本計画」（令和6年3月策定）に基づき、各種施策を展開した。
- ・ （公財）山形県生涯学習文化財団との連携による美術館・博物館が実施する企画展への支援、県民に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供する文化施設・団体への支援、SNSでの情報発信等を実施することにより、県民に魅力ある企画展や優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供した。
- ・ 文化団体と「こども郷土芸能芸術まつり」を開催し、子どもたちの伝統芸能や文化芸術活動の発表の場を創出した。
- ・ 山形県総合文化芸術館における魅力ある公演・イベントの年間を通じた安定的な開催、遠方からの来館促進のための旅行商品造成等により、県内外から多くの来館があった。来館者数は約52万人となり、目標（26万人）を大きく上回った。
- ・ 県立博物館での特別展「海に入るまで濁らざりけり -『母なる川』最上川-」では、山形県の「母なる川」最上川に関する歴史や文学、川絵図などを展示し、最上川を持つ魅力を紹介したほか、プライム企画展「東北の自然史大図鑑-The Great Natural History of Tohoku-」では、東北地方の特徴的な化石や岩石である「県の石」を始め、各地から産出した貴重な化石、岩石、鉱物を展示し、山形県を中心とした東北地方の自然史について広く発信した。
また、庄内地域で初の連携展示となる「庄内自然史博物館」を開催したほか、県内高校生による学芸員一日体験講座を2日間から3日間に拡大して開催することにより、博物館の資料に触れ調査研究への興味関心を高めることにつながった。
さらに、QRコードによる音声ガイドを計30か所に拡大したほか、拡張現実（AR）技術を用いた「ヤマガタダイカイギュウ」のデジタル展示を開始する等、デジタル技術を活用した博物館展示の魅力向上に努めた。
- ・ 県内プロスポーツチームへの支援やスポーツイベントの開催などを通して、多くの県民がスポーツを通じた交流を深めることができた。

(見直しの方向性)

- ・ 「第2期山形県文化推進基本計画」に基づく各種施策を展開していく。
- ・ 美術館・博物館・文化施設・文化芸術団体への支援を通して、引き続き県民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供していく。
- ・ 山形県総合文化芸術館の利用者アンケート等を実施し利用促進に向けた意見を聴取することにより、施設の管理運営や企画事業の検討等に反映させるとともに、引き続き旅行事業者による旅行商品の造成を働きかけるなど、県内外からの来館者を増やすための取組みを進めていく。
- ・ 県立博物館を生涯学習の拠点として、時機を捉えたテーマの設定や、デジタル技術を活用した来館者ニーズを踏まえた魅力ある企画・展示を行っていくとともに、学校教育や外部団体等、地域の多様な主体との一層の連携・協力に取り組んでいく。
- ・ プロスポーツ団体への支援やスポーツイベントの開催を通し、県民がスポーツに触れる機会を引き続き提供していく。

【令和6年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
文化団体等連携 支援事業費	103,412 (103,490)	・ 県内の主要な美術館・博物館が実施する企画展 及び山形交響楽団の活動への支援の実施	4
山形県文化芸術 交流発信事業費	1,442 (1,913)	・ 文化芸術活動と地域住民を繋ぐ役割を担う人材 「地域文化コーディネーター」の育成事業等を実施	4
山形県総合文化 芸術館事業費	20,171 (20,262)	・ 指定管理者との共催により、山形県総合文化芸術館を活かした本格的な舞台芸術鑑賞事業・施設に親しむ体験型事業を実施	4
文化による地域 への愛着・誇り醸 成事業費	2,520 (2,520)	・ 子どもたちの伝統芸能や文化芸術活動の発表の 場「こども郷土芸能芸術まつり」の開催	4
博物館活動整備 事業費	8,356 (8,885)	・ QRコードによる音声ガイド(日英中)の設置 拡大、AR(拡張現実)コンテンツの提供など、 デジタル技術を活用した展示を実施 ・ プライム企画展の開催 「東北の自然史大図鑑－The Great Natural History of Tohoku－」令和6年9月28日～12 月15日	4
プロスポーツ支 援事業費	140,134 (140,242)	・ 県内プロスポーツチームへの支援 ・ プロスポーツチームを活用した地域活性化の取 組み	4
スポーツ振興・地 域活性化推進事 業費	5,612 (6,036)	・ 県外からのスポーツ合宿、スポーツ大会の誘致 のための補助(3件) ・ スポーツイベント(パブリックビューイングや モルック)の開催による交流の拡大	4

スポーツ県「やまがた」推進事業費	2,645 (2,651)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民のスポーツに親しむ気運を醸成するため、県スポーツ・レクリエーション祭を開催（参加者数 2,073 名） ・ 生涯スポーツ推進指導者の養成の一環として、スポーツ推進委員研究大会の開催（参加者数 292 名） 	4
広域スポーツセンター運営費	1,548 (1,698)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型地域スポーツクラブ運営への指導、助言を行うアドバイザーの配置及び訪問（3名、訪問回数 43 回） ・ 総合型地域スポーツクラブの経営力向上のための指導者スキルアップセミナーの開催（庄内地区 1 回、他各地区 2 回、計 7 回） 	4
オリンピックメダリスト育成事業費	82,906 (83,995)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民スポーツ大会成績向上に向けた競技力強化の充実、YAMAGATA ドリームキッズの発掘・育成 	4
計	368,746 (371,692)		

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

(2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】



目標指標	観光消費額	
	基準値（平成30年度）： 2,177億円 直近値（令和5年度）： 1,772億円（前年値1,528億円 前年比+244億円） 目標値（令和6年度）： 2,600億円	
	進捗状況	策定時を下回る

取組みの成果

② 観光地域づくりの推進

K P I	観光者数					
	基準値（平成30年度）： 46,507千人					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—	— ※	49,400千人	50,000千人
	実績値	27,511千人	30,059千人	36,034千人	38,664千人 (直近値)	
	進捗状況	策定時を下回る				
	平均宿泊数					
	基準値（平成30年）：1.32泊（全国平均：1.33泊）					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—	— ※	全国平均以上	全国平均以上
実績値	1.32泊 (全国1.33泊)	1.42泊 (全国1.33泊)	1.42泊 (全国1.35泊)	1.35泊 (全国1.41泊)	1.33泊 (全国1.43泊)	
進捗状況	一定の進捗がみられる					

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<質の高いツーリズムの推進>

(評価)

- ・ 探究型学習やSDGs（持続可能な開発目標）に対応した教育旅行メニューを掲載したパンフレットを活用し、首都圏や関西圏、東北など幅広いエリアの旅行会社に対するセールス活動等を実施した。
- ・ 「やまがた紅王」をはじめとする本県さくらんぼのブランド力を活かした動画による情報発信やラッピングバスの運行を行った。
- ・ 東京都と連携して、ターゲット別に効果的なツールを活用し、雑誌への記事掲載やSNSを活用した情報発信、小冊子の発行等を行った。
- ・ 大手旅行サイトでの特集ページ掲載などにより、本県の多様な山岳資源の魅力を発信した。

- ・ テレビ番組での紹介やモニターツアーの実施などにより「やまがた出羽百観音」のプロモーションを行った。
- ・ 本県の地域色豊かなラーメン・そばを活用したイベント・周遊企画の実施、観光コンテンツ造成、魅力発信動画の制作、SNSでの情報発信、「ラーメン県そば王国やまがた」ロゴマークの制作などを通し、「ラーメン県そば王国」としての魅力を発信した。
- ・ JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」（令和6年4月～6月）の展開やNEXCO東日本と連携した周遊企画の実施等、旅行関連企業と連携した観光誘客を促進した。
- ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、旅行商品造成及び販売に携わる人材のレベルアップを図るとともに、新たな観光地域づくりを推進した。
- ・ 県内の観光事業者と協力のうえ、高付加価値旅行層に好まれる旅行商品の造成、高付加価値旅行を取り扱うエージェントの招請によるプロモーション、当該旅行商品の磨き上げ等を実施した。

（見直しの方向性）

- ・ 教育旅行先として東北地方への関心が高まっているなか、本県が旅行先に選ばれるように探究型学習・SDGs（持続可能な開発目標）に関連した質の高い学習コンテンツの造成や体験プログラムの充実を図り、引き続き首都圏・関西圏など幅広いエリアの旅行会社及び教育機関へのセールス活動や招請事業を実施する。
- ・ 東京都と連携してターゲット別に効果的なツールを活用した共同プロモーションを展開し、交流人口・関係人口の拡大を図る。
- ・ 山岳観光について、地球温暖化や局所的なインバウンド需要の拡大をふまえ、観光客が来訪する季節や地域を分散化させるためのプロモーションを実施する。
- ・ 「やまがた出羽百観音」の構成札所や地域の観光事業者、交通事業者などと連携し、巡礼と観光を組み合わせた旅行商品造成への支援を実施する。
- ・ ラーメン・そばを活用したイベントや情報発信、観光コンテンツづくりを継続して行うとともに、民間事業者が行う県外イベントへの出展支援を通し、官民挙げて観光誘客を行う機運醸成を図る。
- ・ 本県でさくらんぼや西洋なし等の果樹の苗木が導入されてから150年の節目の年であることを活用し、県産フルーツを核とした「やまがたフルーツ150周年誘客キャンペーン」（令和7年5月～11月）を展開し、更なる観光誘客を促進する。
- ・ 高付加価値旅行層の嗜好に合わせた旅行商品の改良を継続するとともに、広域周遊を取り入れつつ、本県ならではの魅力を活かした形で高付加価値旅行層への営業活動を推進する。

＜四季のリゾート“世界の蔵王”としての確立＞

（評価）

- ・ 蔵王温泉、蔵王坊平、蔵王猿倉地域全体の総合的な情報発信基盤として構築した蔵王総合情報サイト「feel the ZA0」を運営した。
- ・ 冬季以外の季節における蔵王への観光客の底上げと二次交通の状況改善を図るため、令和6年8月に県内有数の観光地である山寺と蔵王温泉、かみのやま温泉をつなぐバス運行への支援を行った。
- ・ 新たな観光素材の発掘・磨き上げ・情報発信を行うため、地元観光協会が行う観光コンテンツづくりへの支援を行った。

（見直しの方向性）

- ・ 蔵王総合情報サイト「feel the ZA0」の運営を通し、蔵王の魅力を継続して発信する。
- ・ 県内観光地と蔵王をつなぐバス運行への支援を引き続き行い、観光客の県内周遊を促進す

る。

- ・ 地元観光事業者と連携し、新たな観光コンテンツづくりを支援することで、四季を通じた蔵王全体での観光誘客の促進を図る。

<観光地域としての受入環境の整備>

(評価)

- ・ JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」(令和6年4月～6月)の展開やNEXCO東日本と連携した周遊企画の実施等、旅行関連企業・交通事業者等と連携した観光誘客を実施した。また、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が行う二次交通の整備事業に対し支援を行った。
- ・ 県内観光事業者が経営力強化を図るために行ったDXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を実施した。
- ・ 高付加価値旅行層の誘客に向け、ターゲット層の嗜好に合致した宿泊施設の内容や立地条件についての調査の実施等、高付加価値な宿づくりに向けた対応を行った。

(見直しの方向性)

- ・ 本県でさくらんぼや西洋なし等の果樹の苗木が導入されてから150年の節目の年であることを活用し、県産フルーツを核とした「やまがたフルーツ150周年誘客キャンペーン」(令和7年5月～11月)を展開するとともに、旅行関連企業・交通事業者等と連携し、更なる観光誘客を促進する。また、引き続き、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が行う二次交通の整備事業に対し支援を行う。
- ・ 引き続き、観光事業者が行う観光DXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を行い、県内観光事業者の経営力強化を促進する。
- ・ 調査結果を基に、県内事業者等の意見も聞きながら高付加価値旅行層向けの宿泊施設の整備を推進する。

<広域的な交通ネットワークの利便性向上と広域観光周遊ルートの形成>

(評価)

- ・ 本県への旅行商品造成のため、東京都と連携した現地旅行会社の招請やOTA(オンライントラベルエージェント)での情報発信を実施した。
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を実施して、仙台空港から本県へのアクセスを強化するとともに、各市場において仙台空港からの県内周遊プランを周知し、FIT層(海外からの個人旅行者)の誘客を推進した。
- ・ 高付加価値旅行者層受入れのため、交通手段整理のあり方について情報収集を行うとともに、関係事業者との打合せ等を実施し検討を行った。

(見直しの方向性)

- ・ インバウンドの各重点市場に対して、仙台空港からの県内周遊プランを周知するなど、FIT層の本県への誘客を促進する。
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けた支援を引き続き行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。
- ・ 本県における高付加価値旅行者への交通手段確保に向け、県内外の関連事業者とともに調査事業等に取り組んでいく。

<観光地域づくりの担い手の育成>

(評価)

- ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、旅行

<p>商品造成及び販売に携わる人材のレベルアップを図るとともに、新たな観光地域づくりを推進した。(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「山形おもてなしドライバー検定」(受講者 30 名) 及び「山形観光アカデミー」による研修(3 講座、計 262 名)を実施し、観光関係事業者のおもてなし力向上を図った。 ・ 県内宿泊施設への海外からのインターンシップ受入れを促進し、当該施設への就職に結び付けていくため、台湾の大学関係者と県内の旅館・ホテル関係者による意見交換会を台湾において開催(台湾の 12 大学、県内 6 事業者が参加)するとともに、台湾の大学関係者を招請し、県内旅館・ホテルを視察いただいた(台湾の 9 大学が参加、県内旅館・ホテル 8 か所を視察)。 ・ 台湾、インドの人材派遣機関、トレーニングセンター等を訪問し、関係構築や人材に関する情報交換を実施した。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、「山形おもてなしドライバー検定」や危機管理に関する講座を含めた「山形観光アカデミー」等の研修を実施し、おもてなし力の向上に向けた観光人材の育成を図っていく。 ・ 台湾の教育機関と県内宿泊施設とのマッチングを引き続き支援し、外国人材の受入れを促進していく。 ・ 引き続き、海外の人材派遣機関と県内宿泊施設とのマッチングを支援することで、スキルの高い人材の確保を推進する。
--

【令和 6 年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGs の ゴール
「さくらんぼ県 やまがた」観光誘 客促進事業費	8,673 (8,890)	・ さくらんぼを PR するラッピングバスの運行 ・ さくらんぼ狩りモニターツアーの造成 ・ インフルエンサーを活用した観光情報発信	8
山岳観光推進事 業費	7,707 (8,756)	・ 「世界の蔵王」プロジェクト事業の推進に向け て、蔵王総合情報発信サイトの運営や蔵王エリ アを主要観光地につなぐ二次交通の実証事業等 を実施	8
精神文化ツーリ ズム推進事業費	9,651 (10,342)	・ 本県の強みである「やまがた出羽百観音」等の 精神文化のブランド化に向けて、多様な媒体で のプロモーションやモニターツアーを実施、ア ンケート調査により改善点を検討	8
教育旅行推進事 業費	15,996 (18,073)	・ 貸切バスへの助成、受入態勢の整備、旅行会社 に対する誘致活動等を実施	8
やまがた的グリー ン・ツーリズム 推進事業費	10,326 (10,458)	・ 「やまがた的グリーン・ツーリズム」ホームペー ジやグリーン・ツーリズム NEWS により、旬 のグリーン・ツーリズム情報を首都圏や近隣県 に向けて発信	8
地域広域観光推 進事業費	12,391 (12,432)	・ 各総合支庁において、地域の広域観光協議会と 連携のうえ、地域ならではの特色や強みを活か した観光資源の発掘や磨き上げを図りながら観 光誘客を推進	8

観光キャンペーン推進事業費	32,160 (32,160)	・JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」の開催など官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	8
観光誘客総合推進事業費	99,423 (101,359)	・本県観光を支える人材の育成として、「山形おもてなしドライバー検定」(受講者30名)を実施 ・東京都と連携した観光誘客事業の展開 ・観光DX等に精通するアドバイザーを招聘し、山形の観光を支える人材育成のための講演会を実施(参加者50名)	8
観光連携推進事業費	86,864 (87,580)	・(公社)山形県観光物産協会が実施する本県観光振興を図るための事業(山形観光アカデミー、ボランティアガイド養成)に対して助成	8
DX総合推進事業費【産業労働部所管事業】のうち、観光業専門アドバイザー派遣事業	26,571 の一部 (27,362 の一部)	・観光事業者のDXの推進や高付加価値化等に向けた観光業専門アドバイザーの派遣による伴走支援(実績:12事業者、48回)	8
中小企業パワーアップ事業費【産業労働部所管事業】のうち、観光施設経営強化支援事業	133,972 の一部 (206,782 の一部)	・観光事業者が経営力強化を図るために行ったDXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成(助成件数:52件)	8
高付加価値な観光地づくり推進事業費	32,987 (33,415)	・高付加価値旅行者に好まれる旅行商品の造成 ・現地旅行会社招請や商談会を通じたコネクション形成 ・高付加価値旅行者受入検討に向けた宿泊施設の調査 ・外国人材受入機関とのマッチング支援	8
インバウンド拡大に向けた誘客促進事業費	104,447 (173,553)	・旅行会社に対するツアー造成支援を実施 ・航空会社に対する県内空港への着陸料を支援 ・仙台空港直行バスを運行する交通事業者(2社)への支援を実施 ・県内空港へのチャーター便の誘致に向けた活動を実施	8
計	581,168 の一部 (731,162 の一部)		

③ 戦略的な誘客促進

K P I	県観光情報ポータルサイトのアクセス件数					
	基準値（平成 30 年度）：229 万件					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	240 万件	280 万件	310 万件	330 万件	350 万件
	実績値	162 万件	215 万件	364 万件	409 万件	387 万件
	進捗状況	指標値どおりに推移				
	外国人旅行者受入数					
	基準値（平成 30 年度）：252, 289 人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	—※	520, 000 人	600, 000 人
	実績値	125, 930 人	17, 083 人	56, 051 人	401, 948 人	608, 039 人 (速報値)
	進捗状況	指標値どおりに推移				
	延べ外国人旅行者宿泊者数					
	基準値（平成 30 年）：163, 460 人泊					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
指標値	—	—	—※	345, 000 人泊	400, 000 人泊	
実績値	87, 440 人泊	15, 920 人泊	27, 740 人泊	178, 790 人泊	256, 130 人泊	
進捗状況	一定の進捗がみられる					

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和 6 年度における評価と見直しの方向性】

＜観光関連産業の活性化＞

（評価）

- ・ 県内観光事業者が経営力強化を図るために行ったDXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を実施した。（再掲）
- ・ 本県観光果樹園に県内外からの教育旅行をより一層誘致するため、さくらんぼを活用した探究学習プログラムを開発するとともに、モニターツアーの造成を行った。
- ・ 「やまがた紅王」をはじめとする本県さくらんぼのブランド力を活かした動画による情報発信やラッピングバスの運行を行った。（再掲）
- ・ 大手旅行サイトでの特集ページ掲載などにより、本県の多様な山岳資源の魅力を発信した。
- ・ テレビ番組での紹介やモニターツアーの実施などにより「やまがた出羽百観音」のプロモーションを行った。（再掲）
- ・ 本県の地域色豊かなラーメン・そばを活用したイベント・周遊企画の実施、観光コンテンツ造成、魅力発信動画の制作、SNSでの情報発信、「ラーメン県そば王国やまがた」ロゴマークの制作などを通し、「ラーメン県そば王国」としての魅力を発信した。（再掲）
- ・ JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」（令和 6 年 4 月～6 月）の展開やN

EXCO東日本と連携した周遊企画の実施等、旅行関連企業と連携した観光誘客を促進した。(再掲)

- ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、旅行商品造成及び販売に携わる人材のレベルアップを図るとともに、新たな観光地域づくりを推進した。(再掲)
- ・ 県内の観光事業者と協力のうえ、高付加価値旅行層に好まれる旅行商品の造成、高付加価値旅行を取り扱うエージェントの招請によるプロモーション、当該旅行商品の磨き上げ等を実施した。(再掲)

(見直しの方向性)

- ・ 引き続き、観光事業者が行う観光DXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を行い、県内観光事業者の経営力強化を促進する。(再掲)
- ・ 本県でさくらんぼや西洋なし等の果樹の苗木が導入されてから150年の節目の年であることを活用し、県産フルーツを核とした「やまがたフルーツ150周年誘客キャンペーン」(令和7年5月～11月)を展開し、更なる観光誘客を促進する。(再掲)
- ・ 山岳観光について、地球温暖化や局所的なインバウンド需要の拡大をふまえ、観光客が来訪する季節や地域を分散化させるためのプロモーションを実施する。(再掲)
- ・ 「やまがた出羽百観音」の構成札所や地域の観光事業者、交通事業者などと連携し、巡礼と観光を組み合わせた旅行商品造成への支援を実施する。(再掲)
- ・ ラーメン・そばを活用したイベントや情報発信、観光コンテンツづくりを継続して行うとともに、民間事業者が行う県外イベントへの出展支援を通し、官民挙げて観光誘客を行う機運醸成を図る。(再掲)
- ・ 高付加価値旅行層の嗜好に合わせた旅行商品の改良を継続するとともに、広域周遊を取り入れつつ、本県ならではの魅力を活かした形で高付加価値旅行層への営業活動を推進する。(再掲)

<情報発信の強化>

(評価)

- ・ 東京都と連携して、ターゲット別に効果的なツールを活用し、雑誌への記事掲載やSNSを活用した情報発信、小冊子の発行等を行った。(再掲)
- ・ 首都圏からの観光誘客の拡大を図るため、観光情報番組(「ワクワク!やまがた旅」)を制作・放映し、本県の魅力ある観光情報を発信した。
- ・ 多言語版の県観光情報ポータルサイト「STAY YAMAGATA」で本県の自然・文化・食の魅力を紹介する特集記事を掲載するとともに、インバウンド向け動画「my yamagata」において多言語化を推進した。
- ・ 東京都との共同Webサイトでの情報発信、オンライン広告の配信等により訪日関心層へのアプローチを実施した。

(見直しの方向性)

- ・ 東京都と連携してターゲット別に効果的なツールを活用した共同プロモーションを展開し、交流人口・関係人口の拡大を図る。(再掲)
- ・ 観光情報番組を活用しながら、本県の魅力ある観光情報を発信し、首都圏からの更なる誘客拡大を図っていく。
- ・ 多言語版の県観光情報ポータルサイト「STAY YAMAGATA」について、知名度・認知度の向上と利用促進を図っていく。
- ・ 東京都との観光連携Webサイトの充実を図り、「やまがたへの旅」や「STAY YAMAGATA」の利用者拡大を図る。

<「観光デジタルマーケティング」の推進>

(評価)

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」やSNSのアクセスデータ、観光統計データ等の分析による旅行者の嗜好を踏まえたデジタルプロモーションを実施した。
- ・ 旅行者の嗜好を踏まえた記事の充実を図ったことで指標値を上回るアクセスを確保した。

(見直しの方向性)

- ・ 東北観光推進機構等と連携し、広域的なWebアクセスデータや動態データ、消費データ等を活用することで、データ収集及び分析の強化を図る。

<インバウンドの推進>

(評価)

- ・ 台湾、香港、韓国での現地プロモーション等によりチャーター便を運航する航空会社に働きかけるとともに、旅行会社向けの助成により県内への誘客を推進した。
- ・ 本県への旅行商品造成のため、東京都と連携した現地旅行会社の招請やOTA（オンライントラベルエージェント）での情報発信を実施した。(再掲)
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を実施して、仙台空港から本県へのアクセスを強化するとともに、各市場において仙台空港からの県内周遊プランを周知し、FIT層（海外からの個人旅行者）の誘客を推進した。(再掲)
- ・ 官民一体となって船会社幹部及びランドオペレーターへの招請などを実施し、過去最多となる計7回の外航クルーズ船が酒田港に寄港した。
- ・ 県内の観光事業者と協力のうえ、高付加価値旅行層に好まれる旅行商品の造成、高付加価値旅行を取り扱うエージェントの招請によるプロモーション、当該旅行商品の磨き上げ等を実施した。(再掲)

(見直しの方向性)

- ・ 県内空港への国際チャーター便就航に向けて、現地コーディネーター等と連携し、航空会社や旅行会社に対する誘致活動を継続する。
- ・ インバウンドの各重点市場に対して、仙台空港からの県内周遊プランを周知するなど、FIT層の本県への誘客を促進する。(再掲)
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けた支援を引き続き行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。(再掲)
- ・ 外航クルーズ船について、近隣県と連携し運航決定権のある船会社幹部の招請など誘致活動を継続するとともに、付加価値の高い寄港地観光のためのプロモーション等を実施する。
- ・ 高付加価値旅行層の嗜好に合わせた旅行商品の改良を継続するとともに、広域周遊を取り入れつつ、本県ならではの魅力を活かした形で高付加価値旅行層への営業活動を推進する。(再掲)

【令和6年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
デジタル活用観光誘客事業費	44,332 (44,797)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラーメン・そばを活用したイベント・周遊企画の開催、SNSや動画等を活用した情報発信等による誘客の推進 ・ ラーメン・そばを活用した高付加価値な観光コンテンツ開発につなげるための実証事業の実施 	8

「さくらんぼ県 やまがた」観光誘 客促進事業費 (再掲)	8,673 (8,890)	・さくらんぼをPRするラッピングバスの運行 ・さくらんぼ狩りモニターツアーの造成 ・インフルエンサーを活用した観光情報発信	8
観光キャンペー ン推進事業費(再 掲)	32,160 (32,160)	・JR東日本と連携した「山形県春の観光キャン ペーン」の開催など官民一体となった誘客拡大 を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協 議会」の負担金	8
観光誘客総合推 進事業費(再掲)	99,423 (101,359)	・本県観光を支える人材の育成として、「山形おも てなしドライバー検定」(受講者30名)を実施 ・東京都と連携した観光誘客事業の展開 ・観光DX等に精通するアドバイザーを招聘し、 山形の観光を支える人材育成のための講演会を 実施(参加者50名)	8
観光情報番組放 映事業費	31,168 (31,168)	・首都圏からの観光誘客の拡大を図る観光情報番 組「ワクワク!やまが旅」を放映(46回)	8
DX総合推進事 業費【産業労働部 所管事業】のう ち、観光業専門ア ドバイザー派遣 事業(再掲)	26,571 の一部 (27,362 の一部)	・観光事業者のDXの推進や高付加価値化等に向 けた観光業専門アドバイザーの派遣による伴走 支援(実績:12事業者、48回)	8
中小企業パワー アップ事業費【産 業労働部所管事 業】のうち、観光 施設経営強化支 援事業(再掲)	133,972 の一部 (206,782 の一部)	・観光事業者が経営力強化を図るために行ったD Xの推進や高付加価値化に向けた取組みに対す る助成(助成件数:52件)	8
高付加価値な観光 地づくり推進事業 費(再掲)	32,987 (33,415)	・高付加価値旅行者に好まれる旅行商品の造成 ・現地旅行会社招請や商談会を通じたコネクショ ン形成 ・高付加価値旅行者受入検討に向けた宿泊施設の 調査 ・外国人材受入機関とのマッチング支援	8
インバウンド拡 大に向けた誘客 促進事業費(再 掲)	104,447 (173,553)	・旅行会社に対するツアー造成支援を実施 ・航空会社に対する県内空港への着陸料を支援 ・仙台空港直行バスを運行する交通事業者(2 社)への支援を実施 ・県内空港へのチャーター便の誘致に向けた活動 を実施	8
外航クルーズ船 誘客事業費	15,550 (15,746)	・酒田港への外航クルーズ船の寄港(過去最多と なる7回の受入れ) ・官民一体となった“プロスパーポートさかた”ポ ートセールス協議会を中心に、船会社幹部及び ランドオペレーターへの招請などを実施	8

広域連携インバウンド推進事業費	22,066 (22,915)	・東北観光推進機構や近隣県との連携によるインバウンド誘客プロモーションを実施 ・インバウンド事業の施策推進に向けて、広域観光データを分析	8
重点市場における現地情報発信強化事業費	34,215 (35,104)	・海外現地観光コーディネーター等による現地情報の収集や本県観光情報の発信等による重点市場（台湾、中国、香港、韓国、ASEAN）からの誘客を促進 ・台湾、中国、香港、韓国、ASEAN（タイ・シンガポール・マレーシア）、豪州での現地プロモーションを実施	8
地域間交流・海外教育旅行推進事業費	11,476 (11,580)	・国際交流、姉妹友好州省交流事業に係る費用の一部を支援（国際交流2件、姉妹友好1件） ・台湾教育旅行関係者を県内に招請し、現地視察等を実施 ・県民に対しパスポート取得費用の一部を支援（2,000件）	8
計	597,040 の一部 (744,831 の一部)		

④ 地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

KPI	県内への文化・スポーツ合宿の新規誘致数					
	基準値（令和元年度）：3団体					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—※	3団体	3団体	3団体
	実績値	1団体	0団体	3団体	3団体	3団体
	進捗状況	指標値どおりに推移				

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<p><文化芸術活動・スポーツを通じた交流の促進> (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県総合文化芸術館における魅力ある公演・イベントの年間を通じた安定的な開催、遠方からの来館促進のための旅行商品造成等により、県内各地・県外から多くの来館があった。来館者数は約52万人となり、目標（26万人）を大きく上回った。（再掲） ・県外で本県の文化を発信するため、山形交響楽団東京公演を支援し、本県の観光地や県産品・文化施設等をPRした。 ・県立博物館での特別展「海に入るまで濁らざりけり —『母なる川』最上川—」では、山形県の「母なる川」最上川に関する歴史や文学、川絵図などを展示し、最上川の持つ魅力を紹介したほか、プライム企画展「東北の自然史大図鑑—The Great Natural History of Tohoku—」では、東北地方の特徴的な化石や岩石である「県の石」を始め、各地から産出した貴重
--

な化石、岩石、鉱物を展示し、山形県を中心とした東北地方の自然史について広く発信した。
 (再掲)

さらに、QRコードによる音声ガイドを計30か所に拡大したほか、拡張現実(A R)技術を用いた「ヤマガタダイカイギウ」のデジタル展示を開始する等、デジタル技術を活用した博物館展示の魅力向上に努めた。(再掲)

- ・ 県内の文化・スポーツ施設等で合宿を行う団体を誘致し、新規誘致数は3団体となった。また、山形県スポーツコミッション主催のモルック大会を開催し、スポーツを通じた交流促進に努めた。

(見直しの方向性)

- ・ 山形県総合文化芸術館の利用者アンケート等を実施し利用促進に向けた意見を聴取することにより、施設の管理運営や企画事業の検討等に反映させるとともに、引き続き旅行事業者による旅行商品の造成を働きかけるなど、県内外からの来館者を増やすための取組みを進めていく。(再掲)
- ・ 山形交響楽団の東京公演に対して引き続き支援し、本県の文化・観光の魅力を発信する取組みを進める。
- ・ 県立博物館を生涯学習の拠点として、時機を捉えたテーマの設定や、デジタル技術も活用した来館者ニーズを踏まえた魅力ある企画・展示を行っていくとともに、学校教育や外部団体等、地域の多様な主体との一層の連携・協力に取り組んでいく。(再掲)
- ・ 引き続き県内のスポーツ施設・宿泊施設を活用した合宿の誘致やイベント開催を実施していく。

<海外との相互交流の促進>

(評価)

- ・ 県民のパスポート取得促進による海外旅行の需要喚起を行うとともに、相互交換を促進した。
- ・ 「本県にゆかりがあり、本県の魅力や観光等の積極的なPRが期待される海外在住者を「やまがた特命観光・つや姫大使」に委嘱し、本県への観光誘客や国際交流を促進した。
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンを契機とした相手国・地域とオンラインで繋がるなど、工夫を凝らした交流や情報発信が行われた。

(見直しの方向性)

- ・ パスポート取得費用の助成を継続し、一層の相互交流の発展に取り組んでいく。
- ・ PR効果があり、本県の魅力向上や情報発信等に意欲的な海外在住者に対し、引き続き、本県への観光誘客や国際交流を推進するための取組みを実施していく。
- ・ オリンピック・パラリンピックが終了し、ホストタウン交流は一つの区切りを迎えたが、交流事例の紹介などにより、引き続き国際交流を推進していく。

【令和6年度関連事務事業】

(単位:千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
文化団体等連携 支援事業費(再 掲)	103,412 (103,490)	・ 県内の主要な美術館・博物館が実施する企画展 及び山形交響楽団の活動への支援の実施	8
文化による地域 への愛着・誇り醸 成事業費(再掲)	2,520 (2,520)	・ こどもたちの伝統芸能や文化芸術活動の発表の 場「こども郷土芸能芸術まつり」の開催	8

山形県総合文化芸術館事業費（再掲）	20,171 (20,262)	・指定管理者との共催により、山形県総合文化芸術館を活かした本格的な舞台芸術鑑賞事業・施設に親しむ体験型事業を実施	8
博物館活動整備事業費（再掲）	8,356 (8,885)	・QRコードによる音声ガイド（日英中）の設置拡大、AR（拡張現実）コンテンツの提供など、デジタル技術を活用した展示を実施 ・プライム企画展の開催 「東北の自然史大図鑑－The Great Natural History of Tohoku－」令和6年9月28日～12月15日	8
博物館運営費	101,298 (109,362)	・展示室パネル・照明更新工事、体験広場改修工事等の実施	8
文化財保護事業費	44,521 (80,946)	・国・県指定文化財の保存修理（国宝羽黒山五重塔など国指定17件、県指定4件）等への支援の実施	8
「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業費	1,895 (2,026)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて新たに2団体の取組みを登録したほか、既登録団体4団体の取組みに対する補助を実施	8
日本遺産魅力発信推進事業費	1,880 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び情報発信	8
スポーツ振興・地域活性化推進事業費（再掲）	5,612 (6,036)	・県外からのスポーツ合宿、スポーツ大会の誘致のための補助（3件） ・スポーツイベント（パブリックビューイングやモルック）の開催による交流の拡大	8
プロスポーツ支援事業費（再掲）	140,134 (140,242)	・県内プロスポーツチームへの支援 ・プロスポーツチームを活用した地域活性化の取組み	8
スポーツ県「やまがた」推進事業費（再掲）	2,645 (2,651)	・県民のスポーツに親しむ気運を醸成するため、県スポーツ・レクリエーション祭を開催（参加者数2,073名） ・生涯スポーツ推進指導者の養成の一環として、スポーツ推進委員研究大会の開催（参加者数292名）	8
オリンピックメダリスト育成事業費（再掲）	82,906 (83,995)	・国民スポーツ大会成績向上に向けた競技力強化の充実、YAMAGATAドリームキッズの発掘・育成	8
地域間交流・海外教育旅行推進事業費（再掲）	11,476 (11,580)	・国際交流、姉妹友好州省交流事業に係る費用の一部を支援（国際交流2件、姉妹友好1件） ・台湾教育旅行関係者を県内に招請し、現地視察等を実施 ・県民に対しパスポート取得費用の一部を支援（2,000件）	8
計	526,826 (573,895)		

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

(3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】



取組みの成果

⑤ 国際ネットワークの形成促進

K P I	外国人旅行者受入数（再掲）					
	基準値（平成30年度）：252,289人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	—※	520,000人	600,000人
	実績値	125,930人	17,083人	56,051人	401,948人	608,039人 （速報値）
進捗状況	指標値どおりに推移					

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<三大都市圏や近隣県の国際空港との連携> (評価)

- ・ 本県への旅行商品造成のため、東京都と連携した現地旅行会社の招請やOTA（オンライントラベルエージェント）での情報発信を実施した。（再掲）
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を実施して、仙台空港から本県へのアクセスを強化するとともに、各市場において仙台空港からの県内周遊プランを周知し、FIT層（海外からの個人旅行者）の誘客を推進した。（再掲）

(見直しの方向性)

- ・ インバウンドの各重点市場に対して、仙台空港からの県内周遊プランを周知するなど、FIT層の本県への誘客を促進する。（再掲）
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けた支援を引き続き行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。（再掲）

<広域的な移動を支える二次交通の充実> (評価)

- ・ JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」（令和6年4月～6月）の展開やNEXCO東日本と連携した周遊企画の実施等、旅行関連企業・交通事業者等と連携した観光誘客を実施した。また、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が行う二次交通の整備事業に対し支援を行った。（再掲）
- ・ 仙台空港から本県への直行バスを運行する乗合バスを支援し、本県へのアクセス向上を図った。
- ・ 高付加価値旅行者層受入れのため、交通手段整理のあり方について情報収集を行うとともに、関係事業者との打合せ等を実施し検討を行った。（再掲）

<p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県でさくらんぼや西洋なし等の果樹の苗木が開始されてから 150 年の節目の年であることを活用し、県産フルーツを核とした「やまがたフルーツ 150 周年誘客キャンペーン」(令和 7 年 5 月～11 月)を展開するとともに、旅行関連企業・交通事業者等と連携し、更なる観光誘客を促進する。また、引き続き、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が行う二次交通の整備事業に対し支援を行う。(再掲) ・ 引き続き、仙台空港からのアクセス向上に向け、関連事業者への支援等に取り組んでいく。 ・ 本県における高付加価値旅行者への交通手段確保に向け、県内外の関連事業者とともに調査事業等に取り組んでいく。(再掲) <p><酒田港の機能強化></p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 官民一体となって船会社幹部及びランドオペレーターの招請などを実施し、過去最多となる計 7 回の外航クルーズ船が酒田港に寄港した。(再掲) <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外航クルーズ船について、近隣県と連携し運航決定権のある船会社幹部の招請など誘致活動を継続するとともに、付加価値の高い寄港地観光のためのプロモーション等を実施する。(再掲)
--

【令和 6 年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGs の ゴール
観光キャンペーン推進事業費(再掲)	32,160 (32,160)	・ JR 東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」の開催など官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	11
外航クルーズ船誘客事業費(再掲)	15,550 (15,746)	・ 酒田港への外航クルーズ船の寄港(過去最多となる 7 回の受入) ・ 官民一体となった「プロスパーポートさかた」ポートセールス協議会を中心に、船会社幹部及びランドオペレーターの招請などを実施	11
インバウンド拡大に向けた誘客促進事業費(再掲)	104,447 (173,553)	・ 旅行会社に対するツアー造成支援を実施 ・ 航空会社に対する県内空港への着陸料を支援 ・ 仙台空港直行バスを運行する交通事業者(2社)への支援を実施	11
計	152,157 (221,459)		

⑥ 国内広域交通ネットワークの充実強化

【令和 6 年度における評価と見直しの方向性】

<p><広域的な移動を支える二次交通の充実></p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」(令和 6 年 4 月～6 月)の展開や N E X C O 東日本と連携した周遊企画の実施等、旅行関連企業・交通事業者等と連携した観光誘客を実施した。また、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が
--

行う二次交通の整備事業に対し支援を行った。(再掲)

(見直しの方向性)

- ・ 本県でさくらんぼや西洋なし等の果樹の苗木が導入されてから 150 年の節目の年であることを活用し、県産フルーツを核とした「やまがたフルーツ 150 周年誘客キャンペーン」(令和 7 年 5 月～11 月)を展開するとともに、旅行関連企業・交通事業者等と連携し、更なる観光誘客を促進する。また、引き続き、やまがた観光キャンペーン協議会において、各地域観光協議会等が行う二次交通の整備事業に対し支援を行う。(再掲)

【令和 6 年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGs の ゴール
観光キャンペーン推進事業費 (再掲)	32,160 (32,160)	・ JR 東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」の開催など官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	11
計	32,160 (32,160)		

(4) 地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】



取組みの成果

⑦ 自然環境や文化資産の保全・活用・継承

K P I	地域の伝統・文化行事等に参加している児童生徒の割合					
	基準値（令和元年度）：小6：85.7%、中3：65.9%					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—※1	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%
	実績値	—	小6：77.0% 中3：59.8%	小6：71.6% 中3：55.3%	小6：75.6% 中3：49.0%	—※2
進捗状況	策定時を下回る					

- ※1 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの
 ※2 令和6年度全国学力・学習状況調査において設問項目が削除され、数値的把握が困難となったもの

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<p><文化資産の活用・継承> (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県文化財保存活用大綱に基づき、文化財を確実に次世代へ継承するため、保存とその活用にかかる各種取組みを実施した。 地域の文化財を保存・活用する取組みについて、新たに2団体を「未来に伝える山形の宝」として登録したほか、既登録4団体への補助を行った。また、伝承文化支援研究センター主催の「民俗芸能フェスティバル」及び「やまがた伝承文化まつり」の参加団体に対する参加経費の支援により発表機会を確保するとともに、団体同士のネットワーク構築を支援した。 日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』及び「山寺と紅花」を活用し、小学生を対象とした対象とした親子伝統文化体験事業を実施した。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県文化財保存活用大綱に基づき、文化財を確実に次世代へ継承するために、保存と活用の好循環につながる取組みを実施する。 伝統文化・民俗芸能の継承のため、引き続き、地域の文化財を保存・活用する取組みを掘り起こし、「未来に伝える山形の宝」登録制度への新規登録を推進し、支援を行う。 引き続き、日本遺産を活用し、観光振興、地域活性化を図るとともに、人材育成・普及啓発の取組みを通じて、文化遺産の保存・継承につなげていく。
--

【令和6年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業費(再掲)	1,895 (2,026)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて新たに2団体の取組みを登録したほか、既登録団体4団体の取組みに対する補助を実施	8

日本遺産魅力発信推進事業費(再掲)	1,880 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び情報発信	8
文化財保護事業費(再掲)	44,521 (80,946)	・国・県指定文化財の保存修理(国宝羽黒山五重塔など国指定17件、県指定4件)等への支援の実施	8
埋蔵文化財保護事業費	31,985 (32,001)	・農林公共事業に係る発掘調査(2件)及び埋蔵文化財の普及啓発の実施(埋蔵文化財センターへの委託)	8
計	80,281 (116,873)		

(5) 地域の特徴を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】



取組みの成果

⑧ 県を越えた交流連携の推進

【令和6年度における評価と見直しの方向性】

<多様な分野における近隣県等との交流連携の推進>

(評価)

- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を実施して、仙台空港から本県へのアクセスを強化するとともに、各市場において仙台空港からの県内周遊プランを周知し、FIT層（海外からの個人旅行者）の誘客を推進した。（再掲）

(見直しの方向性)

- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けた支援を引き続き行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。（再掲）

<目的指向型の国際交流・連携の推進>

(評価)

- ・ 県民のパスポート取得促進による海外旅行の需要喚起を行うとともに、相互交換を促進した。（再掲）
- ・ 「本県にゆかりがあり、本県の魅力や観光等の積極的なPRが期待される海外在住者を「やまがた特命観光・つや姫大使」に委嘱し、本県への観光誘客や国際交流を促進した。（再掲）
- ・ 県内で文化・スポーツ合宿を行う海外や県外からの団体を支援した。

(見直しの方向性)

- ・ パスポート取得費用の助成を継続し、一層の相互交流の発展に取り組んでいく。（再掲）
- ・ PR効果があり、本県の魅力向上や情報発信等に意欲的な海外在住者に対し、引き続き、本県への観光誘客や国際交流を推進するための取組みを実施していく。（再掲）
- ・ 引き続き、県内で文化・スポーツ合宿を行う海外や県外からの団体を支援していく。

【令和6年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
インバウンド拡大に向けた誘客促進事業費（再掲）	104,447 (173,553)	・ 旅行会社に対するツアー造成支援を実施 ・ 航空会社に対する県内空港への着陸料を支援 ・ 仙台空港直行バスを運行する交通事業者（2社）への支援を実施	11
重点市場における現地情報発信強化事業費（再掲）	34,215 (35,104)	・ 現地観光コーディネーター等による現地情報の収集や本県観光情報の発信等による重点市場（台湾、中国、香港、韓国、ASEAN）からの誘客を促進 ・ 台湾、中国、香港、韓国、ASEAN（タイ・シンガポール・マレーシア）、豪州での現地プロモーションを実施	11

地域間交流・海外教育旅行推進事業費（再掲）	11,476 (11,580)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流、姉妹友好州省交流事業に係る費用の一部を支援（国際交流2件、姉妹友好1件） ・台湾教育旅行関係者を県内に招請し、現地視察等を実施 ・県民に対しパスポート取得費用の一部を支援（2,000件） 	11
スポーツ振興・地域活性化推進事業費（再掲）	5,612 (6,036)	<ul style="list-style-type: none"> ・県外からのスポーツ合宿、スポーツ大会の誘致のための補助（3件） ・スポーツイベント（パブリックビューイングやモルック）の開催による交流の拡大 	11
計	155,750 (226,273)		